

その3

# ワークショップからはじめる 自律プランづくり

## 第2回 「6月30日」 自律プラン作成委員会

最初に、第1回の作成委員会  
で要望のあった人口推計と財政  
状況について、事務局より資料に  
基づいて説明がなされました。  
第2回作成委員会では、「産業  
経済」と「教育福祉」の2部会を  
設置し、会場を分けてそれぞれが  
ワークショップ（※）を行いました。  
部会のテーマに沿って、各自が自由  
に意見を出し合い、今後の議論



ワークショップの様子

と検討の方向性を探ります。そ  
の際、委員各自からあらかじめ提  
出されていた提言についても話し  
合いました。各部会のワークショップ  
は2時間近くに及び、様々な  
意見が飛び交いました。整理され  
た内容は全体会議の中で発表さ  
れ、さらに意見が出されました。

### 産業経済部会のワークショップ

経済産業部会のワークショップ  
では、安心できる生活基盤とし  
て誰もが稼げる地域経済産業を  
築くについて、様々な意見が出さ  
れました。それらの領域を農業と  
商工業さらに一般町民・行政と3  
分し、それぞれに、モノ、ヒト、カネ  
の側面から考える2次元の枠組  
みが作成され、また、それらに関  
する意見交換の場や仕組みづく  
りの必要性も示されました。

### 教育福祉部会のワークショップ

教育福祉部会のワークショップ  
では、高齢者にあたたかいまちを  
目指して、健康寿命を延ばすま  
ちづくりを進める方策について、  
様々な意見が出されました。そ  
のため具体的な案として、高齢者が自  
由に集まって交流できる夢のある  
場づくりと、高齢者の人生経験  
を生かして、仲間を募って子育て  
支援に参加することなどが出さ  
れました。



ワークショップの様子

次回は、それぞれの部会から  
出された構成図を具体化するた  
め、さらに意見を出し合うことと  
なりました。

## 第3回 「7月9日」 自律プラン作成委員会

前回の作成委員会に引き続き  
て、内容を具体化するためのワー  
クショップが、部会に分かれて行わ  
れました。それぞれのテーマに沿って、  
2時間にわたり課題や問題点、方  
策のアイデアなどが出されました。

### 継続されたワークショップ

産業面では、特に農業における  
新たな人材導入の方策やその可能  
性について、活発な意見交換がなさ

れました。しかし一方では、教育方面  
についてあまり具体的な議論がで  
きなかったことなど、課題も残りま  
した。

### 全体の確認事項（次回に向けて）

- 各部会の成果を発表しあつた後  
に、全体で意見交換がなされ、いく  
つかのことが確認されました。
- (1) 基本的な二つのテーマ  
① 安心して暮らすための稼ぎ方  
② 健康寿命を延ばす仕組みつ  
くり
- (2) 二つのテーマに共通する  
3つの視点  
① 安心して暮らせるまちづくり  
② 住民一人ひとりが生き生き暮  
らせるまちづくり  
③ まちづくりを継続できる基盤  
と仕組みづくり

これらのテーマと視点をどのよう  
に具体化するかを次回以降話し  
合うこととなりましたが、そのため  
には、3つの視点をわかりやすく簡  
略に表現すること、これまでこれら  
のテーマと視点が充分に実現でき  
なかつた原因や背景、その解決に不  
可欠な行政改革などについて、  
問題点を出し合うこととなりました。

※参加した住民が各々の立場を越えて自由  
に発言し、その内容を整理しながら合意  
形成を図る手法。

## 行政報告

### 6/25 第2回定例町議会

#### 菅原章嗣町長から、 4件の行政報告が なされました。

##### 1 農産物の生育状況について

5・6月の低温、多雨、少日照とい  
つた気象状況を受け、アスパラガスにおい  
ては、5月に霜害が発生し、全町的に  
被害が及びましたが、マイナス気温の時  
間が短かつたことから、昨年のような刈  
り取りを要する圃場は5haにとどま  
り、全体の被害は平年収穫量の1割程  
度の減と見込んでいます。

またこの低温の影響により、早出し  
馬鈴薯やプロッコリーにおいても5日か  
ら7日の遅れ、メロン、トマトは、長雨に  
よる日照不足から玉の肥大不足や着  
色の遅れが見られ、平年に比べ1週間  
程度の遅れとなっています。  
今後は、遅れについても回復してい  
くものと予想しています。

##### 2 開発行政要望について

国道230号の道路改良事業は、本  
年度をもって完了する予定です。国道  
276号の道路改良事業と中山峠地  
区においては、早期の全面整備につ  
いてさらなる要望を行っていきます。本年度、  
福丘地区にあります弧線橋撤去とS  
字カーブの線形緩和について事業着手

が決定され、工事期間に使用する仮道  
の設置が行われる予定となっており、  
上尻別・尻別地区では、冬期間の風雪  
緩和のための防雪柵が設置されてい  
ます。路面損傷が激しい双葉地区にお  
いては、損傷箇所の部分的補修が実施さ  
れましたが、今後全面的な補修につ  
いて検討が行われます。

##### 3 札幌市との連携について

6月24日に札幌市上田文雄市長  
と、まちづくりの課題について意見交換  
を行う機会を得ました。上田市長は、  
近隣市町村との連携強化に努めていま  
す。今回の意見交換において、上田市長  
からは「後志と石狩」ということで支庁  
管内は違いますが国道230号でつな  
がり、双方の住民が中山峠を挟んで、  
行き来しやすい関係にあり、両市町の連  
携は双方の今後のまちづくりにとつて、  
重要な政策課題です」との認識をいた  
だき、今後のまちづくりの方向性につ  
いて共通理解を深めることができました。

具体的なお取り組みについては、両市  
町の部課長級により課題を整理し、特  
に札幌市南区を念頭にいただいた新た  
な関係づくりを築き上げるようとする  
ものです。単なる物産やイベントの交流  
に止まらない、都市と小規模自治体の  
新たな連携モデルとなるような取り組  
みにつなげていきたいと考えています。

#### 4 北海道大学 公共政策大学院との 連携協定について

6月3日に北海道大学公共政策大  
学院との連携協定書を締結しました。  
これは、直面している過疎化、高齢化、  
財政難等の共通課題に対して、多くの  
実例、研究成果を持つ北海道大学公  
共政策大学院との間で、次の4点で連  
携を進めていくこととしています。

- 1点目は、本町の「まちづくり自律  
プラン」への協力として、大学院の山崎  
幹根教授に、今後のプラン作成等につ  
いて助言をいただくことです。
- 2点目は、本町の地域産業の育成や  
地域経済の循環、住民の健康面での連  
携を進めていきます。秋には健康科学  
を担当する河口教授を中心とした研  
究員による生活習慣病等の町民健康  
診断が実施される予定となっています。
- 3点目は、本町と南区をはじめとし  
た札幌市との広域連携のサポートで  
す。

4点目は、本町のまちづくりの取り  
組みを大学院生や教授らがフィールド  
ワークにより研究を進めることとも  
に、自律プラン策定委員や職員の北大  
での人材育成を含めた研修を行う相  
互の発展を図ろうというものです。

### 7/7 第6回 臨時町議会

#### 菅原章嗣町長から、 1件の行政報告が なされました。

##### 1 クレイドル興農における ホワイトアスパラガス 原料集荷実績について

クレイドル興農では、例年、喜茂別、  
伊達、三川工場で140トン程度の原  
料ホワイトアスパラガスが集荷されて  
いますが、その戸数は91戸、面積は35.5  
町歩で、その半数以上を由仁町三川地  
区産が占め、生産者の高齢化に伴い、  
総生産量は減少傾向にあります。

ちなみに、本町の生産者は29戸、10  
町歩の出荷契約数となっており、毎年  
平均30トンの出荷量となっています。本  
町の生産農家の反当りキロ数は300  
キログラム強で、他の2市町の平均と比  
べ100キログラム程度少ない出荷量と  
なっており、生食用として販売されてい  
る量が、相当あるものと予測していま  
す。

ホワイトアスパラガスは、クレイドル興  
農の特色のひとつであり、本町の歴史の  
一部として大切にしていかなければなら  
ないものです。今後は、クレイドル興農  
の経営戦略を伺いつつ、ホワイトアスパ  
ラガス対策を本格的に検討する必要が  
あると考えています。